

ナザレト幼稚園

お得意さんの鈴木写真館は東仙台にある。主人に、電気屋さんの二朗ちゃんをナザレト幼稚園に入れませんか、と話があった。鈴木写真館はその幼稚園のスナップ写真を、一手に引き受けていた。

幼稚園はカトリック系だが評判もよく、園長先生はとてもよい人だそうで、評判が良いのでなかなか入れないが、私が推薦すると言う。

推薦して貰い二朗はナザレト幼稚園の二年保育に通う事になった。東仙台の北方にあり、バスで通わなければならない。あの時代は送迎バスはない。定期券を求め、五分くらいかかる停留所まで、毎日私が連れて行き、バスに乗せてやる。

幼稚園近くの停留所には、バスで通う園児を先生が迎えに出ている。手をつなぎ坂に登る姿を、先回りして見た事がある。可愛い子供たちの面影が今も目に浮かぶ。

どこの親も我が子の幼稚園姿は可愛いと思う。毎日二朗と手を



ナザレト幼稚園入園記念撮影 (昭和37年4月)

なぎ、送るのが私の日課だ。帰りも時間が決まっているから、迎えに行く、殆ど妻が迎えに行くが、時々私も行く。

定期券を紐で首からぶら下げ、そのままバスの乗り降りだ。車掌さんも心得ていて、手を貸し乗せてくれる。帰りも先生がバスに乗せてくれる。二郎も降りる停留所を覚えていて、降りてくる。父や母を見つけニッコリする顔が今でも目に浮かぶ。

二郎が乗り越して降りて来なく、次の停留所まで妻が走って迎えに行つた事があつた。又降りて来ないので車掌さんに聞いたら、一つ手前で降りたと言う。妻は驚き電話をよこした。「二郎が一つ手前で降り銀杏町の方に行つたかも知れないから、急いで行つて見て」と言う。

私は店を閉め急いで銀杏町に行つたが、見つからない。そうしたらどうだろう、バス通り沿いにノコノコ歩いて来るではないか。母を見つけないか、肝を潰すくらい心配かけられたと話していた。



運動会、遠足、お遊戯会等二郎のスナップ写真が、

洋一のより多い。専属の写真屋さんが多く撮つて呉れたからだ。昭和三十七・八年、妻が二十八・九才の時の微笑ましい思い出だ。昭